（様式－3）

送電線工事災害報告書（再発防止対策書）

九州支部

発生日時	令和 4年 6月 27日（月曜日） 11時 25分							天候	晴れ	
災害の程度	死亡 名		負傷 1 名		職種 鉄筋工		年令 74 才		経験年数 56 年	
工事の種類	調査測量	伐採	運搬	仮設	基礎	組立	足場	架線	撤去	その他
災害の種類	墜落・転落	転倒	物の飛来・落下	崩壊・倒壊	はさまれ・巻き込まれ	切れ・こすれ	感電	その他		
原因	作業準備の不良	作業方法の不良	工具防具の不良	電気工作物の不良	作業者の過失	共同作業者の過失	その他			
設備	電圧 kV	回線	電線 mm² 導体	地線 mm² 条 地線 mm² 条						

災害の状況

【件名】 作業足場からの作業員転落負傷事故

【発生状況】 当日、作業班は、作業員６名（被災者含む）にて№32鉄塔敷地防護工事の配筋作業に従事していた。

当該箇所の配筋作業終了後、施工状況の確認のため、被災者は、足場から鉄筋へ片足で跨いだ際、足場に残った足を滑らせ転落し、足場に胸部を強打し負傷した。

【経緯】

［2022年6月27日（月）］

8:00	TBM-KY実施
8:30	現場作業着手
11:25	災害発生（意識あり、腹部の痛みあり）
11:40	現場から近隣の病院へ搬送
11:55	現場代理人から関係個所へ連絡
12:20	近隣の病院到着 → 医師の判断で救急車を要請
13:25	総合病院到着
15:15	容体判明（7日～10日程度入院予定、手術不要）

【被災状況】

・多発肋骨骨折（第2～6肋骨）、左肺損傷

【被災者の服装】

安全帽、作業服、安全靴、手袋、胴ベルト

【災害概要図】

(様式-2)参照

（注）1. 「人身災害報告要領」に基づいて記載するものとし、「工事の種類」「災害の種類」「原因」については該当項目に〇印を付ける。

2. 災害状況の説明と共になるべく図面を添付すること（様式－2）。特に感電の場合は支持物、電線の離隔距離その他寸法を記入する。

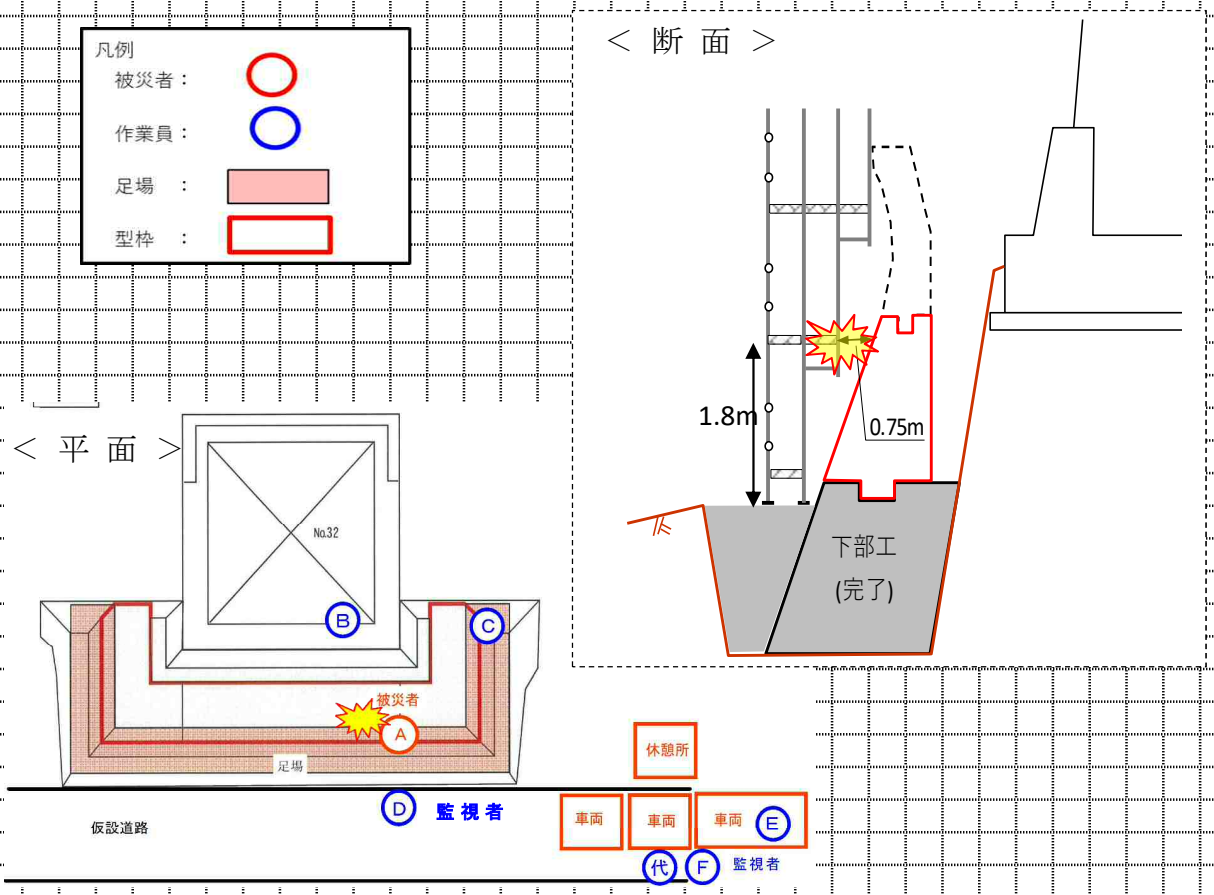
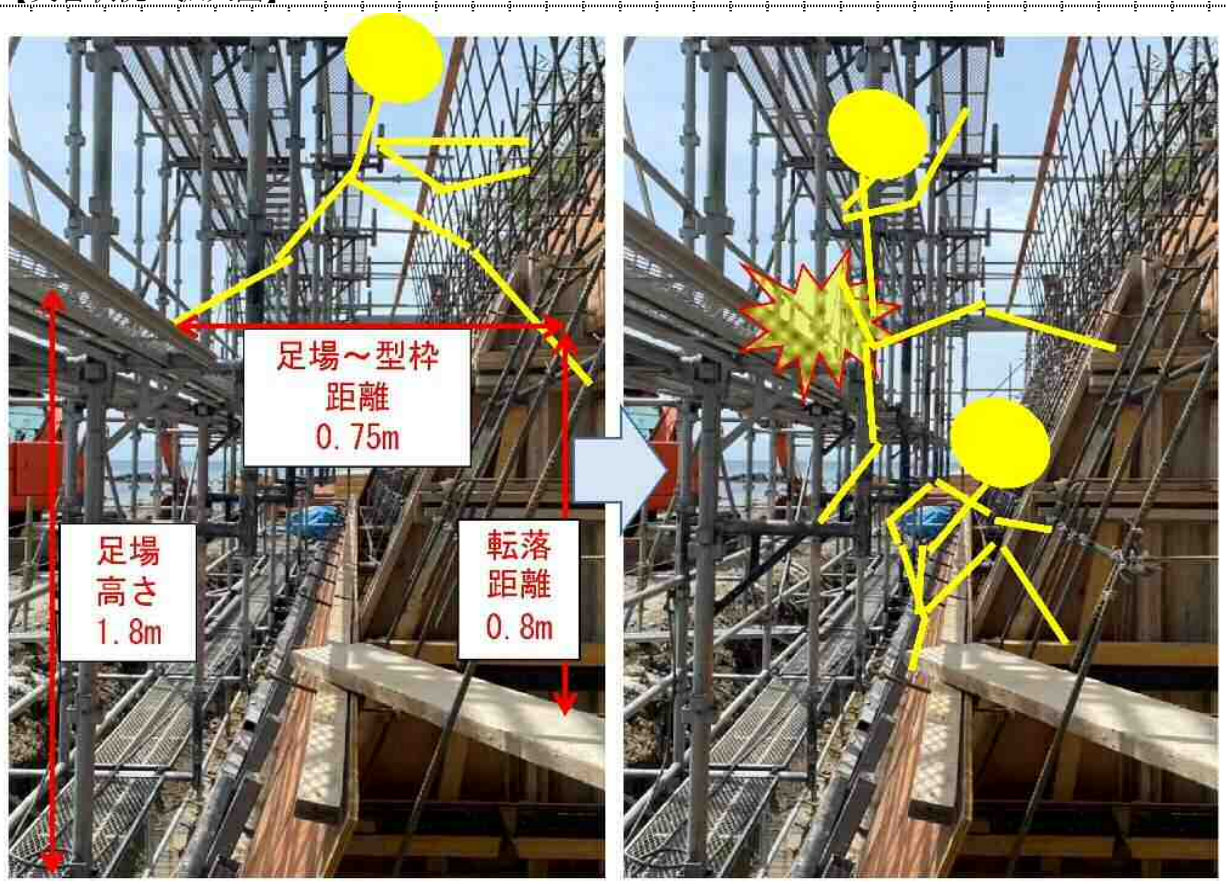
原因及び対策	【 原 因 】 (1) 転落に対する危険感受性が欠如していた。 ・ 被災者は、作業用足場から体を乗り出すことで、転落する危険性があることを想定していなかった。 ・ 状況の変化点では、リスクが高まるということへの意識が十分でなかった。 (2) 作業用足場から体を乗り出す行動に対し、墜落防止制止器具を使用することの必要性（転落の危険性）について、作業員に対する理解浸透状況の確認が十分でなかった。 【再発防止対策】 (1) 現場代理人は、乗込み教育等において、今回の事例を踏まえた安全教育を繰り返し実施する。 ［教育内容］ ・地上からの距離によらず、転落の危険性のある場合は転落防止対策を行い、”自らの身は自分で守る”という意識付けを徹底する。 ［教育のポイント］ ・若年層や高齢者、元請けや下請けの関係性等を考慮し、コミュニケーションの充実による危険感受性の向上を意識した教育を実施する。 (2) 現場代理人及び作業班長は、ＫＹミーティング等における問いかけ等により、作業前に各作業員の理解浸透状況を確認する。 (3) 理解不足を確認した場合は作業に従事させず、再度安全教育を行う等により、理解浸透を図る。

（注）1. 「人身災害報告要領」に基づいて記載するものとし、「工事の種類」「災害の種類」「原因」については該当項目に〇印を付ける。
2. 災害状況の説明と共になるべく図面を添付すること（様式－2）。特に感電の場合は支持物、電線の離隔距離その他寸法を記入する。

（様式－2）

災　害　概　要　図

【概要図】



【災害状況　拡大図】